



ICT 海外ボランティア会会報

No. 80

2018年4月3日(火)

URL: <https://ictov.jimdo.com> (2017年以降の分)

<http://www.ictov.jp> (2016年以前の分)

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆ JICA の動き

JICA シニア海外ボランティア 2018年度春募集

事務局

◆ 国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

◆ 海外実践マネジメント

今も継続・拡大する Smart・PLDT プロジェクト(5)

元 PLDT チーフオペレーティングアドバイザー

元 NTT アメリカ社長

現(株)ハイホーCEO 鈴木 武人氏

◆ 海外グラフィティ

金子兜太を悼む

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智氏

◆ 第 35 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

JICA シニア海外ボランティア 2018 年度春募集

事務局

JICA はシニア海外ボランティアの 2018 年度春募集を開始しており、募集期間は 5 月 1 日(水)正午までです。当会会員が応募しやすい案件を下記に抜粋しましたので、奮ってチャレンジしていただければ幸いです。また、JICA 主催の説明会が通年で全国各地及び Web で多数開催されていますので、参加されることをお勧めいたします。

<http://www.jocv-info.jica.go.jp/sv/index.php?m=BList>

<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/>

区分	国名・配属先	要 請 内 容
コンピュータ技術	パプアニューギニア 国立最高裁判所	裁判所内の業務改善を図るため、各種提案を行い、必要に応じ新規システムの開発を行います。同僚がシステムの運用やトラブルシューティングができるよう教育を行います。また、IT ポリシーの運営上の助言なども求められています。
同上	モザンビーク 財務情報システム 開発センター	経済・財務省管轄の財務情報システム開発センターで財務関連サブシステムのシステム設計・開発を支援します。また、開発言語は JAVA で、OS は LINUX を使用しています。
同上	ウズベキスタン 小児科医科大学イ ノベーション IT セ ンター	ウズベキスタン共和国の首都タシケント市にある医科大学において、IT イノベーションセンターの一員として同僚とともにシステムの構築・運営・保守、ウェブサイトの整備等を行う。また、学内外のセミナー等で日本の ICT 利用について紹介をします。
電気・電子機器	タイ カンチャナピーセ ック マハナカコ ーン技術高等専門 学校	技術高等専門学校の電子科において、モノづくりに関する技術・技能の習得プロセスを重視したカリキュラムの見直しや教材開発の指導・助言を行うとともに、ロボット製作、ロボットコンテストへの参加に関する指導・助言を行います。
再生可能・省エネルギー	アルゼンチン サン・マルティン 市役所生産経済開 発局	首都から西に約 20km に位置するサン・マルティン市役所にて、同地域の中小企業が再生可能エネルギーの有効活用及び省エネ化を推進するための助言や配属先スタッフへの指導、アクションプランの策定などの活動を行います。
経営管理	メキシコ サン・フアン・デ ル・リオ工科大学	配属先は、日系企業が多く進出するケレタロ州に位置するため、専門的能力を習得した学生を産業界に輩出する事を目指しています。それゆえ、日本式生産性方式を用いた実習を含む授業の改善や、関連企業への経営指導を同僚と共にを行う事を期待されています。
同上	アルゼンチン トゥクマン州生産 開発局中小企業部	アルゼンチン北部の主要都市であるトゥクマン州地域にある中小企業を対象に企業診断、生産管理・経営管理に関する支援をカイゼン手法等を用いながら行います。
品質管理・生産性向上	タイ チェンマイ大学	配属先はタイ北部チェンマイに位置し、地域の発展に貢献することも大学の使命と位置づけ、産官学連携を意識した活動をしてきています。タイ北部の地域開発プロジェクトや関連企業への品質・生産性向上のためにシニア海外ボランティアによるアドバイスが必要とされています。
マーケティング	ウズベキスタン 企業統治教育研究 センター	首都タシケントにある経営学修士(MBA)養成専門教育機関で、企業幹部、産業団体管理職、経済関係官僚らを対象に MBA コースカリキュラムのうちの日本におけるマーケティングに関する講義を担当します。

国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

国際交流基金は日本語パートナーズ派遣事業として、マレーシア 5 期(25 名)、ブルネイ 4 期(1 名)、シンガポール 5 期(1 名)について、4 月 23 日(月)に募集開始予定です。海外と日本の架け橋になりたい方、[海外で日常生活・活動してみたい方\(旅行・出張ではなく\)](#)などぜひ奮ってご応募いただければ幸いです。

<http://jfac.jp/partners/apply/>

1. 趣旨

幅広い世代の人材をアジア諸国の主として中等教育機関へ派遣し、現地日本語教師と学習者の日本語学習のパートナーとして、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、アジア諸国の日本語教育を支援する。同時に、日本語パートナーズ自身も現地の言語や文化についての学びを深め、アジア諸国と日本の架け橋となることを目標とする。

2. 活動内容(期間は 10 か月程度)

- (1)現地日本語教師のアシスタントとして授業をサポート
- (2)日本文化の紹介を通じて、派遣先の生徒や地域の人たちと交流
- (3)現地の言葉や文化を習得、等

3. 待遇

滞在費(シンガポール 3 期の場合、税引後月額 15 万円程度)、往復航空券、国内交通費、住居等が提供される。

4. 応募要件

- (1)満 20 歳から満 69 歳で日本国籍を有する方
 - (2)日常英会話ができる方(英語で最低限の意思疎通が図れる程度)
 - (3)派遣前研修(約 1 か月間)に全日参加できる方
 - (4)心身ともに健康な方、等
- (注)日本語を教えた経験がなくても良い。特技のある方、[人生のキャリアを積んだ方](#)、アジアとの交流に熱意を持った方の応募が期待されている。

海外実践マネジメント

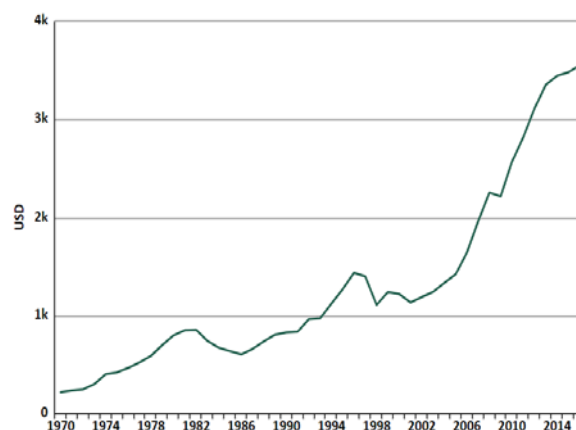
今も継続・拡大するフィリピンの Smart・PLDT プロジェクト(5) — 『NTT を巡るグローバル環境の変化』 日米貿易摩擦、AT&T 分割・再編、 そして NTT のグローバル化へ —

元 PLDT チーフオペレーティング・アドバイザー
元 NTT アメリカ社長
現 株式会社ハイホー CEO
鈴木 武人

3 : 固定通信網

需要は ???

固定網敷設義務地域のルソン島北部と首都圏南部は豊かで高い通信需要が有るとされてきました。しかしながら、赴任直後に現地スタッフに見込み顧客、即ちアンケートや申込書を出してくれた家庭を回ってインタビューをしてもらうと、『申込みまでは無料だから権利の為に申込みが、払う金は無い』といったケースが多い事が判明しました。当時(1996年)の同国の一人あたりの所得は\$1020で、政府データから通信と放送への総支出はその5%程度とされている事から5人家族としても月\$20程度となり、これを固定・携帯・放送(CATV等)へ配分しなければならない状況で、創設費だけで\$2000を要す固定電話を全家庭に普及するという政治的スローガンは経済的に無理という事が判ります。



フィリピン国民一人当たりの収入の推移

とは言え、現地の新聞は先行各社の工事進捗状況をまるでレースの様に報告、更に『敷設義務を果たせなければ免許が剥奪される』ので、結果的に固定通信は無料で提供されると言わんばかりの大騒ぎをしていました。

開通式

「Smart 社への投資契約締結の大統領表敬の中で、大統領から『半年後に大阪 APEC へ出席するので、その機会を利用して日本から Smart 固定通信網へ初電話、開通式をやりたい』と言われたので了承した。準備するように」と児島社長からオーダーがありまし

た。機器の調達契約交渉を始めたばかりの状況で、このままではオーダーに応えることは出来ません。

このことを聞いた NTT International が、米軍が中東で使用したという可搬型交換機を見つけて、機材として輸送してくれました。ただ、機材として発送したものは税関手続きで滞って届かず、なんと社員の携行荷物および書類として送った2セットが到着し、マニラ側の会場は何とかなる算段はつきました。しかし、大統領が何処へ電話を掛けるかは大統領次第ですから、全国カバーが必要です。そこで現地エンジニア達と相談の上、既に運用している移動通信交換機に固定用番号も相乗りさせて、仮想的に全国固定網を作ることにしました。この案について NTT の常務会に呼ばれて説明した後、某幹部から『これはペテンにならないか』と心配され、技術部隊を派遣して検証もして頂きました。

Smart プロジェクトは NTT の出資説明で国際通信には触れて居なかった事も有り、KDD-PLDT の夫々国際ゲートウェイに Smart に割当てられた固定番号の設定をしてもらいました。端末機には Smart の移動通信端末仕様(900 MHz)を固定電話機にしてインターフェイスをとった古典的 WLL を多数準備して、大統領が電話をかけると思われる政府機関、州市政府、実家、主たる後援団体等に設置しました。



所が、大統領からの最初の電話の予定時間に合わせる様に会場が突然に停電し、リチャウコ運輸通信省次官が真っ青になる場面がありました。さすがに両会場を結んだ TV は停電で使えませんでした。直前に約1千人の死者を出した台風アンジェラの来襲に備えて再確認していたバックアップ電源が働いて、最初の記念通話が無事完了し、その後の各地への大統領の通話も完了する事が出来ました。確認は出来ませんでした。電力会社の Meralco 社が、その子会社の BayanTel 社が Smart と競合関係にあるので意図的に給電を止めたのではとの情報がありました。Meralco 社は電柱への共架を認めなかったり、認めても工事完了後に切断されたとの報告が何度もあり、関係に苦勞しましたが、その息子の代での家族内の争議に乗じて、その後、パンギリナン氏のグループが買収してしまいました。

敷設工事

小生は固定回線については、現場訓練の時代以来関わったことがありませんでした。当初は丸山氏等の設計に従い、マンホール等の地下設備も含め通常の工法で開始しました。しかしながら、フィリピンの上向き経済で土地価格が暴騰して局舎用地の入手が遅れ、契約通りの Ericsson の機器搬入に、肝心の建物が間に合わない状況となりました。基礎工事と骨組みはどうやら完了していたので、止むを得ずですが、各階の床仕上げを先行、ビル全体をビニールシートで覆って、可搬型発電機を駐車施設に搬入し、電力と空調を稼動させて交換機や伝送装置の搬入を行いました。Ericsson は当然保証出来ないと反対しましたが、建設現場でコンピュータを使う場合にはよくやる様式です。XB ではないので、機械部分は MTU に限られましたから空調がダストを排除するまで数日運転し、シートで 2 重に機器を覆えば可能と判断した結果です。

マニラは地図を御覧頂ければお判りの様に、マニラ湾と大きなラグーナ湖の間に挟まれた砂州の様な地形で、海拔も海水面すれすれと言って良いでしょう。マンホールも掘ってみれば直ぐに泥水が沸いて溢れ、またちょっと雨が降れば町中が洪水になります。また火山灰の影響かアスファルト舗装が何層もあって、工事会社が削岩機を使ったせいで、その下の下水管を壊して道路際の商店に損害を与える様な事も起きました。結果、当初は理想とした地下化は諦め、殆ど架空へと切り替える事となりました。

マニラ北部では、ラモス大統領による開通式の直前に襲った巨大台風アンジェラによって、20 世紀最大といわれる 1991 年のピナツボ噴火の火山灰が流れ出し、数 m から所によっては 20 m 程の深さで町を覆ってしまっていました。競争会社の既設電話局も灰に埋もれ、あるいは灰に押されて川に半分落ちて傾く等、惨憺たる有様でした。とは言え、だからこそ需要があるとして、地方中心都市、アンヘレスやダグーパンへの展開にあたり、これは地元の土木技師の提案でしたが、コンクリート柱を四方に打ち込み、灰の上にコンクリート製のフロート状の人工地盤を作り、その上にプレハブ局舎を乗せて、まるで船の様な交換局を作った事もありました。この火山灰のラハールと呼ばれる泥流はマニラ湾と東シナ海に至る川を埋め、少なくとも小生の在任中に何度も記憶に残るような洪水を引き起こしました。現地の人々はこのラハールを建材に用いるとか、壺に焼いて売るとかの種々の工夫をして生きる努力をしていました。



競争下での固定網敷設の基本的難しさは局舎用の敷地の買収と局外設備敷設の為の権利(Right of way)の確保にありました。これに加え工事の実施には市や町、部落(バランガイ)等各層の種々の許可も必要です。各社入り乱れての競争ですから、一箇所に電柱が何本も立ったり、これを嫌った市長がその撤去を命じたり、挙句には美観を損なう様な工事だ、として工事要員が警察に逮捕され拘置されてしまい、自らその引取りに行ったりした事もありました。Smart 設備の中心となるマニラの南のパラニャーケビルの建設工事に際し、許可申請の手続きに遺漏があったとして、工事が差し止められました。工事を再開するために、俳優出身の同市長と賠償金や寄付といった差しの交渉をせざる

競争下での固定網敷設の基本的難しさは局舎用の敷地の買収と局外設備敷設の為の権利(Right of way)の確保にありました。これに加え工事の実施には市や町、部落(バランガイ)等各層の種々の許可も必要です。各社入り乱れての競争ですから、一箇所に電柱が何本も立ったり、これを嫌った市長がその撤去を命じたり、挙句には美観を損なう様な工事だ、として工事要員が警察に逮捕され拘置されてしまい、自らその引取りに行ったりした事もありました。Smart 設備の中心となるマニラの南のパラニャーケビルの建設工事に際し、許可申請の手続きに遺漏があったとして、工事が差し止められました。工事を再開するために、俳優出身の同市長と賠償金や寄付といった差しの交渉をせざる

を得ない危険な状況もありました。この件はラモス大統領の意向として政治的に解決が付きました。

この様な中で、規制当局(NTC)の Kintanar 長官が統計学に詳しくた事で理解が得られたのだと思いますが、フィリピンの国民所得、これに対して固定回線設置に関わる費用と、これから生じる海外債務等に関する議論の末、『設備の容量(トラフィック見合い)として十分なものを設置し、支払いを受けてから2週間程度で開通するのは義務とするが、それ以上の義務は問わない』との言を得ました。即ち、架設については『Payable Demand』についてのみ対応する事で良いとの内諾を、この内容を公開しない事が約束でしたが、得る事が出来ました。その後、NTCからは Smart の固定網の進捗は常に良好というレポートを頂く様になりました。Kintanar 氏はその後3期も下院議員をしたそうです。

なお、国内の安価な製品を調達できないかとの議論もありました。国内企業からも購入して欲しいという要求がありましたが、国内で生産しているケーブル等は全て保税特区で生産しており、これを購入しようとする度に一度輸出してから輸入しなければならないという矛盾があり、かえって高くなったのです。従って、通信会社は調達先の国の輸出入銀行から借入れて設備を購入、設置する事になります。更に、公共サービスとしての免許を受けた Smart 社は、その通信インフラ設備の型式認定権限と共に無関税で輸入する特権を持ちましたので、輸入に頼る他はありませんでした。

と言っても、金をかけて工事を進めたのですから、現実問題として加入者の確保が必要です。当初申込みには長い行列が出来ていたのですが、やっぱりニーズは高いのかと思われ、『待ちの営業』を考えていたのですが、金を払う段階になるとこれが急に萎みました。やむなく、急遽敷設が完了した地域での戸別訪問を含めた営業を始めました。日本大使館や日本商工会議所で見知った会社等は真っ先に応じてくれましたが、インカンベントの PLDT からの着信呼が通じ難いとのクレームが発生し、お詫びに務める毎日となってしまいました。既存の通信会社との相互接続が問題で、相互接続担当をせっついた所、『PLDT はトラフィック見合いでチャネルを用意して居り、現状のチャネル数は十分である。チャネル増設には予算の関係もあり、いずれトラフィックが増えたら容量を増やす』と対応を拒否したとの事で、またまた規制当局の NTC に駆け込んで指導をお願いする状況でした。NTC による緊急指導で助けてもらった事も大きかったのですが、相互接続については携帯電話とも共通する問題であり、携帯電話の顧客数、トラフィックの増加で複数ポイントで相互接続する等徐々に解決していきました。ただ、先進国と後進国の関係と同じで、相互接続では PLDT 発・Smart 着の呼が多かったせいで、レシーバブルが拡大し、徐々に経営問題となって行きました。

固定通信網は事業として思ったような成果が得難い状況でしたが、公衆電話については既存通信会社が設置していなかったせいも有り、かなりの成功を収めました。収益が高かったせいで、固定網ばかりでなく、開通式で使用したと同じ 900MHz 帯による WLL で全国的に展開して行きました。特に WLL で島嶼間のフェリー等の船舶に設置した公衆電話は好評で、プリペイドカードの導入も果しました。(次号に続く)

金子兜太を悼む

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智



俳人金子兜太が亡くなり、家の隣の市立図書館では、早速、専用のコーナーが設けられ、20冊ほどの著書が並べられている。まさに異色の俳人である。通常の季語、五七五などにこだわらず、率直に人間の生きざまを描いている。

秩父の生まれ、開業医の父親も自宅で句会を催すほどの環境に育った。其の父は、秩父音頭を俗っぽいものから洗練されたものに直すほどの粹人で、この秩父音頭のリズムが自然と兜太の体内に沁みついていると言う。その父親が上海同文書院の校医で赴任したことから、兜太自身中国好きになっている。兜太の俳句が「金子の中には中国がある」と言われる所以である。どこか、大陸的なおおらかさが確かに句風に感じられるのだ。さらに、置かれた環境が句風に影響を与えたものの決定的になった出来事は2つあると述懐している。

まず、一つ目は戦争体験だ。東京帝国大学経済学部を繰り上げ卒業して日銀に入るがたった3日で海軍経理学校に入学。ここからがいかに金子らしい。卒業後の任地の志望を聞かれると「南方第一線」と答える。教官からは「貴様、死ぬぞ」と言われたが、「私の家にはほかに兄弟がたくさんいますから」と答えた。そして、最前線のトラック島に海軍主計中尉で送られる。食料不足から多くの餓死者を見ながら、捕虜も経験し、終戦から1年3ヶ月後にやっと帰国する。この時「捨身飼虎」・・・自分を捨てて、人のために生きる決意をしたのだ。去る前に、戦没者のためにトラック島に墓碑を建てたのだが、祖国に帰る船の中で作ったのは「水脈(みお)の果て炎天の墓碑を置いて去る」。これが、まず人生の最初の転機で作った句だ。この時すでにある程度、立身出世を諦めていたのではないか。

日銀に帰っても、学閥廃止など組織の近代化を叫び、組合の事務局長まで務めている。福島支店を皮切りに、神戸、長崎と十年間の支店暮らし。定年の時はようやく、本店証券局主査。東大出にもかかわらず、まさに、出世とは縁のない行員生活だった。

二つ目の決定的な出来事は、神戸支店の時だ。ある朝、神戸港にたたずんでいた。一羽のカモメがさっと急降下して海に突っ込み魚をくわえて飛び上がったのだ。それは、まさにトラック島で、ゼロ戦が敵の攻撃を受けて海に落ちるのを連想させた。この時、自分は銀行での出世を捨てて俳句に生きることを明確に決意させたようだ。この時の句が、

「朝はじまる海へ突っ込む鷗の死」である。

俳句は世界でも最も短い詩である。五七五たった十七文字の詩など、どこにもない。金子兜太はこの殻を破り、花鳥風月の季語にこだわらず、五七五にも収まらない。時に、短歌のように社会性も帯びている。戦後俳句に新風を吹き込んだ画期的な前衛の俳人と言える。芭蕉より本能に生きた小林一茶をこよなく愛し、もっぱら自らを「荒凡夫」と称している。さらには自らを「俳句そのもの」と言ってはばからない。98歳見事に天寿を全うした。(完)

お知らせ

第 35 回海外情報談話会開催のご案内

事務局

ICT 海外ボランティア会(ICTOV)による第 35 回海外情報談話会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日時：2018 年 5 月 23 日(水) 15 時～17 時
2. 場所：(一財)海外通信・放送コンサルティング協力(JTEC)及び Web TV 会議室
東京都品川区西五反田 8-1-14 最勝(さいしょう)ビル 7 階
JR 五反田駅から徒歩約 5 分(下図のとおり)
<http://www.jtec.or.jp/about/access.html>
3. 講師：土田 英紀様 (NTT ベトナム顧問)
4. 演題：「ベトナムの市場動向と NTT ベトナムの活動について」
5. 参加費：無料(会員制ではなく、どなたでも参加できます)
6. 申込方法：参加ご希望の方は、下記連絡先にご氏名及び談話会参加希望の旨をご連絡ください。なお、Web TV 会議室への参加ご希望の方はその旨ご記載ください。
<連絡先> ICTOV 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp

☆いつでも聴けそうでなかなか聴けない NTT ベトナムの活動等について、気軽に楽しく談話しながら、学び、考える機会です。
乞うご期待！

(注) Web TV 会議室への参加方法は次のとおりです。

①次のサイトで初回のみ、Zoom Client for Meetings (サイトの一番上にあるもの)をダウンロードし、インストールする(無料)。なお、Zoom はクラウドベースの Web TV 会議室システムであり、パソコン、スマホ、タブレットのいずれでも可能です。

<https://zoom.us/download>

②Web TV 会議室の案内が海外情報談話会開始 5 分前までにメールで届くので、メールで指定された Web TV 会議室に入室する。



会報お読みの方々へのお願い

当会の拡充とともに、会報の充実も図ろうとしております。

このため、会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず当会運営にあたって大きな方向付けに役立ちます。どうぞ遠慮なくお送りくださいますようお願い申し上げます。

<送付先> 事務局 info.ictov@network.email.ne.jp 又は
会報担当 村上勝臣 katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただきまして第 80 号が出来ました。ありがとうございました。

会報及び掲載記事に関するご意見・反響などについて、メールだけでなく、他の ICT ツール(例えば、「いいね」とか「コメント」のようなもの)を活用して収集できないかと検討しています。何か良いアイデアがございましたら、ぜひ事務局あて教えていただければ幸いです。今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)

会報担当： 村上 勝臣(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)

ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)